

[た よ り]

和歌山県支部だより

柏井利彦

1 支部のあらまし

和歌山県の透析医療は阿部富弥現和歌山医大名誉教授を中心に進歩、発展し、勉強会である和歌山透析研究会は阿部名誉教授、秋澤忠男前教授を中心にすでに67回開催されている。本年4月からは県立医大腎臓内科・血液浄化センターに重松隆教授が就任、さらなる発展を期待している。

透析医会は少し遅く1981年に結成され、1989年から日本透析医会の支部となり現在に至っている。結成当初は理事の互選により役員を決めていたが、平成12年より会員全員の選挙により会長・副会長を選出、理事・監事は会長・副会長より委嘱するよう変更している。

平成18年4月に改選があり、現在の役員は下記の通りとなっている。

会 長	柏井利彦	柏井内科クリニック
副会長	半羽健二	半羽胃腸病院
理 事	重松 隆	和歌山県立医科大学血液浄化センター
	宇治田卓也	宇治田循環器科内科
	打田和宏	紀北クリニック
	大伴裕美子	日本赤十字社和歌山医療センター
	北 裕次	きたクリニック
	風呂谷匡彦	名手病院
	前田明文	児玉病院
	根木茂雄	和歌山県立医科大学血液浄化

センター

監 事 木下敬之助 松尾外科

顧 問 阿部富弥 中谷病院・和歌山医科大学
名誉教授

2 現在の主な活動状況

1) 和歌山県の慢性透析療法の現況把握

2001年より、日本透析医学会統計調査委員会の報告より和歌山県の結果を抽出し、全国平均と比較検討、毎年和歌山透析研究会に現状報告を行っている。

① 2004年末和歌山県の現況

透析施設	42施設
同時透析	892床
最大	2,817名
慢性透析患者数	2,421名
新規導入患者数	326名
年間死亡患者数	208名
粗死亡率	10.4% (全国平均9.4%)

② 慢性透析患者の人口100万対比

1,945.8人 (全国平均1,624.1人 第7位)

③ 1983年以降導入患者1年生存率

84.3% (全国平均86.0%)

④ 2004年導入患者の傾向

● 導入年齢

和歌山県	全体 65.77歳
	(男性 64.62歳 女性 67.86歳)
全国平均	全体 63.78歳
	(男性 63.04歳 女性 64.98歳)

表1 アンケートの回収率

	2001年	2002年	2003年	3年計
新規患者数	325	330	317	972
集計数	225	161	265	651
率(%)	69.2	48.8	83.6	67.0

表2 地域別の患者数

	男性	女性	合計
紀北	27	6	33
和歌山市	246	157	403
海南市	14	10	24
有田市・有田郡	15	6	21
御坊市	26	13	21
田辺市	47	22	69
新宮市・東牟婁郡	41	23	64
全県	416(63.7%)	237(36.3%)	653

表3 地域別導入年齢

	2001年	3年間の平均
紀北	63.7	65.5
和歌山市	65.3	65.1
海南市	70.3	68.2
有田市・有田郡	68.9	66.7
御坊市	65.6	63.9
田辺市	60.1	63.5
新宮市・東牟婁郡	59.3	63.0
全県	64.6	65.8

表4 慢性透析患者の分布

	紀北	和歌山	湯浅	御坊	田辺	新宮	全県
患者数	322	1,392	147	180	278	255	2,393
率(%)	13.4	58.2	6.1	7.5	11.6	10.7	100

全国平均より高齢で、特に男性では約1.6歳も年齢が高い。

- 原疾患

慢性糸球体腎炎由来41.4%、糖尿病性腎症37.3%と慢性糸球体腎炎由来が減少してきているものの最も多い。糖尿病性腎症の頻度は増加している。

- 死亡

新規導入患者の死亡は18名と少なかった。

2) 新規導入患者の検討

2000年末の現況より、和歌山県では慢性腎不全患者が多く、かつ導入3カ月以内の死亡例が多いとの認識より、2001年より新規導入患者の実態調査を行っている。

アンケート調査の一部を表1, 2, 3, 4に掲載する。表2が示すように、和歌山県では新規に導入される患者には性別差が見られる。地域別の導入年齢を見ると(表3)、南に行くほど過疎化が進み平均年齢も高くなる一方、導入年齢が低くなっている現状がある。慢性透析患者の分布を表4で見ると、和歌山市周辺で主に導入され、維持透析は地域の医療機関で行われている例が多い。

3) 災害時透析医療検討会

和歌山県は近い将来南海地震が予想されている。その対応として、和歌山県医務課を中心に、県医師会、病院協会、透析医会、県立医大血液浄化センター、保健所の参加で2005年度に3回の会議を持った。さらに、府中腎クリニックの赤塚東司雄先生を迎え県下2カ所で講演会を開催、各保健所単位で地域の連絡会を開催、地震への対応を検討している。

3 和歌山県の問題点

和歌山県の透析医療は、和歌山県立医大血液浄化センター・日本赤十字社和歌山医療センターを中心としているがなお透析医会への参加が少なく、医療機関相互の連携も必ずしも良好とはいえない。災害発生時の対応も始まったばかりであり、なお不十分な事が多い。

和歌山県の透析施設は人口の多い、紀ノ川筋、海岸線に沿ったところに偏在している。かなりの施設で送迎を行っているが、他府県同様高齢化が進む傾向にあり、透析患者の送迎が透析医療機関・透析患者ともに負担となっている。

以上和歌山県の現状について述べたが、なお透析医

会への参加率も低く、前回報告した 2001 年と比べて 状である。
も大差なく、残念ながら十分活動できていないのが現